

京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書

平成24年 8月31日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長 辻 井 昭 雄 様

所属部局・研究科 理学研究科

職 名・学 年 博士後期課程3年

氏 名 小 泉 有 希

助 成 の 種 類	平成 24 年度 ・ 若手研究者在外研究支援 ・ 国際研究集会発表助成	
研 究 集 会 名	World Congress of Herpetology (WCH.7) 国際爬虫両棲類学会第7回大会	
発 表 題 目	Molecular phylogeography of three species of the genus Scincella (Squamata: Scincidae) from the East Asian Islands revealed by mitochondrial DNA ミトコンドリアDNAを用いた東アジア島嶼域におけるスベトカゲ属3種の分子系統地理	
開 催 場 所	カナダ・ブリティッシュコロンビア州・バンクーバー	
渡 航 期 間	平成24年 8月 8日 ～ 平成24年 8月14日	
成 果 の 概 要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有()	
会 計 報 告	交付を受けた助成金額	200,000 円
	使用した助成金額	200,000 円
	返納すべき助成金額	0 円
	助 成 金 の 使 途 内 訳	渡航費 196,810 円
		学会参加費 451.20CAD (約36,096円)
超過分は私費による支払い		
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 海外での研究発表という機会を与えて下さり、ありがとうございました。 日本だけではなく、海外の研究者の方々と交流できる機会は大変貴重だと思いますので、今後も貴財団の助成事業が継続されることを願っております。	

成果の概要／小泉有希

【概要】

報告者は、京都大学教育研究振興財団による平成 24 年度国際研究集会発表助成□期を受け、2012 年 8 月 8 日から 14 日にかけてカナダ・バンクーバー・ブリティッシュコロンビア大学で開催された第 7 回国際両棲爬虫類学会大会（WCH7）に参加およびポスター発表を行った。その成果について報告する。

本大会は、カナダ国内外の爬虫両棲類および魚類の研究者が参加する大規模な国際大会である。実際、約 1,000 題の口頭発表、および約 400 題のポスター発表が行われた。時間や会場の都合等により、全てのセッションに参加することは不可能であったが、非常に多くの興味深い研究を知ることができた。

【研究発表】

報告者は、大会期間中「Molecular phylogeography of three species of the genus *Scincella* (Squamata: Scincidae) from the East Asian Islands revealed by mitochondrial DNA」（和文題目：ミトコンドリア DNA を用いた東アジア島嶼域におけるスベトカゲ属 3 種の分子系統地理）という題目のポスターを掲示し、8 月 10 日の「Posters 2; Reptile systematics, biogeography, genetics & evolution」のセッションにおいてポスター発表を行った。以下に発表内容の概要を示す。

東アジア島嶼域にはスベトカゲ類 3 種が分布していることが知られている。このうちサキシマスベトカゲとタイワンスベトカゲは南琉球と台湾にそれぞれ固有に分布している。もう 1 種、ツシマスベトカゲは長年対馬固有種であると考えられてきたが、近年の形態学的研究から、韓国にも分布することが示された。しかしこれらのスベトカゲ類の系統関係は不明である。そこで報告者らは、東アジア島嶼域および韓国産スベトカゲ類 3 種に関して分子学的手法を用いて系統解析を行い、その成果について発表を行った。解析の結果、ツシマスベトカゲが最初に分岐し、その後タイワンスベトカゲとサキシマスベトカゲが分岐したことが明らかとなった。また、種間の遺伝的変異から、従来考えられていたよりも古くに種分化が生じていたことが示唆され、現在の分布域の形成過程についても考察を行った。

報告者の発表に訪れた参加者から、質問や有益なコメント、論文は出版されているのかとの問合せもいただいた。特にソウル国立大学の Min Mi-Sook 教授が本研究の内容に興味を持ってくださり、発表時間外でも様々な助言をいただいた。本大会に参加したおかげで、報告者の研究成果を国際的に発信できたと感じる。

【その他】

本大会において数多くの発表を見聴きして、研究成果の面白さはもちろんのこと、プレゼンテーション方法やポスターのデザインなど発表技術に関しても学ぶことが多く、非常に参考になった。また、セッションの合間等のコーヒータイムや懇親会では日本を含む研究者の方々と会話をすることで交流関係を広げることができ、有意義な時間を過ごすことができた。

【謝辞】

今回の国際大会への参加によって、国内での学会参加だけでは得ることのできない貴重な経験を数多く得ることができました。学問的な知識だけではなく、海外の多くの研究者と交流することもでき、今後の報告者の研究において大変有益なものになりました。このような国際大会に参加する機会を与えてくださり、京都大学教育研究振興財団に心より感謝申し上げます。